**第２学年２組　図画工作科学習指導案**

**1 題材名**　キラキラシャボンで

**2 本時の学習指導**（１．２／４）

（1）目　標

○シャボンから生まれる模様の面白さや楽しさに気付きながら、表したいことを考える。（発想や構想の能力）

（2）準備

○教師　　シャボン水、画用紙、ストロー、透明カップ、乾燥棚、ビニールシート、雑巾、新聞紙、ゴミ袋、セロハンテープ

○児童　　スモック

（3）〔共通事項〕

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色などに気付くこと。

イ　形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

（小学校学習指導要領解説図画工作編より抜粋（下線部は〔共通事項〕との関連）

（4）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動、予想される  児童の具体的な姿（「」） | 指導の工夫  （〔共〕：〔共通事項〕に係る内容） | 評価と手だて、評価規準、【評価方法等】 | 時  間 |
| １　参考作品を鑑賞して、製作の仕方を想像し、題材について知る。  ∞どんな泡の表現ができるかを話し合う。  「大きな泡をつくって大きな雲を描いてみたいな。」  ２　製作の流れを確認する。  ３　本時の流れを確認する。  ４　 シャボン水で泡をつくり、画用紙に移していく。  ∞色々な泡の模様の写し方を考え、泡の移し方を工夫している。  ・「泡を繋げて大きな泡にしてみよう」  ↑行き戻り↓  ∞できあがった泡から見えてくる形から、自分の表したいことについてさらに考え、発想を広げながらつくる。  「泡が大きな雲に見えてきたから、ここには鳥をかいてみようかな」  ５　泡から見つけた形やどんな世界にしたいかを発表し合い、お互いの作品の良さを見つける。  ６　片付け | 提案　シャボンのあわのもようのおもしろさを見つけながら、  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　自分の表したいせかいをつくろう！  ○題材への興味関心をもつために教師の参考作品を鑑賞する。  ○教師の参考作品からどんなものが見えてくるかを考えて、泡の形のイメージを引き出していく。  ○児童を集め、教師が実際にやり方を見せ、活動の参考となるようにする。  ○完成した作品の置き場所や片付けのやりを説明し、製作時間について板書することで、見通しをもって活動できるようにする。  ○石鹸水を吸わないようにすること、シャボン水は入れすぎないようにすること（5ミリ）、シャボン水をこぼしてしまったときはそのままにしないでふき取ること（滑る危険性）を約束事として守るようにする。  ○泡の移し方を工夫している姿や、色々な形の泡のつくりかたを試している姿を認め、全体に広めていくようにする。  ○シャボンから生まれた模様を生かして絵に表す活動を通して、形や色などをとらえる。〔共〕  ○できあがった泡からどんな形が見えてくるかを考え、表したいものを見つけるようにする。  ○次回は泡から見えてきた形や世界に近づけるために、クレヨンやカラーペンを使った製作をすることを伝えるとともに、本時の活動を振り返る。  ○役割分担し、効率的に片付けができるようにする。 | 発  シャボンから生まれた模様の形や色などを基に見立てを行い、表したいものを見つけている。  〈対話・行動活動・表現〉  [努力を要する状況と評価した児童への手だて]  ○うまく泡をつくれていない、画用紙に移せない児童には手助けをする。 | ５´  １０´  ５´  ５５´  ５´  １０´ |

**3 備　考**　（１）在籍児童数　３５名

　　　　　（２）環境構成図

黒　　　　　　　板

製作スペース

道具置き場

作品置き場

シャボン水置き場

(３)板書計画

シャボンのあわのもようのおもしろさを見つけながら、

自分の表したいせかいをつくろう！

キラキラシャボンで

やり方

①シャボン水を入れる。

②ストローでふいてあわをつくる。

③あわを画よう紙にうつす。

④あわをうつしおわったら、作ひんだなに入れる。

⑤二まい目にとりくむ。

時間

１０時　１５分まで

やくそく

・シャボン水はすわない。

・シャボン水は入れすぎない。

・シャボン水をこぼしてしまったときは、

そのままにしないでふきとる。